

地区名：下庄地区

実施主体：下庄をよくする会

1 基本データ

- 地区人口 8,572人 (H31.1.1現在)
- 世帯数 2,895世帯
- 行政区数 32行政区
- 面積 約19.1平方キロメートル
- 地区の沿革

下庄地区は、大野市の北西部に位置し、勝山市に隣接している。昭和29年に2町6ヵ村が合併して大野市が誕生した時に、下庄町も大野市に編入された。

地区内には、国の九頭竜川ダム総管理事務所や県の奥越土木事務所、奥越合同庁舎のほか、ビュークリーンおくえつ、奥越明成高等学校、大野警察署、大野郵便局等の官公庁等が集中しており、国道沿いには複数の郊外商業施設も進出している。また、中部縦貫自動車道の大野ICも当地区に設置され、平成29年7月永平寺大野間が供用開始されており、北陸自動車道路と直結し、市民の利用が増加している。



下庄地区の航空写真：農村地域と市街地が混在している

2 現状と課題

下庄をよくする会では、昭和54年の発足以来住民主体のまちづくり運動の推進に努めてきた。本年度で31回を数える下庄まつりは地区内の各種団体が参加し、地区を挙げての行事となっている。毎年多くの来場者でにぎわい、地区民の交流促進、団結力の強化、地区の活性化に大きな成果を上げている。

また、地区内の一人暮らし、二人暮らしの高齢者宅に手打ちそばを届ける「まごころそばサービス」や河川や山際の環境パトロールなどの環境美化啓発運動など、その活動は多方面にわたり、その活動に対し数々の表彰を受けている。

平成27年3月に下庄地区内の名所・史跡を紹介する「下庄の名所・史跡」を、翌年の3月に地域に伝わる昔ばなしをまとめた「下庄の昔ばなし」を作るなど地域の資源発掘にも力を入れている。平成29年には名所・史跡を盛り込んだ地域の唄『ふるさと「下庄」巡り旅』を作成した。

これらの活動を支えるのは、地区内の各種団体から選出される委員と32地区から推薦される地区推進委員、そして会の趣旨に賛同するまちづくり運動協力者からなる約90名の委員である。しかし、まちづくり活動への意識には差があり、一部の委員に活動が偏りがちとなっている。



また、長く活動をけん引してきた役員も年齢を重ね、より若い年齢層への世代交代が思うように進んでいない現状がある。

こうした中、平成25年に結成された若者グループ「しもプロ」は、継続的に事業を行い、結成時よりも会員は増えている。しかしながら結成時の会員が結婚して子どもが生まれたり、市外へ転勤したりするなど、活動できる会員が減ってきている。今後も活動を続けるため、会員数の増加と活動支援が必要となっている。



平成31年1月21日に「しもプロ」の河川を活かした活動が評価され、九頭竜川・北川水系河川水質汚濁防止連絡協議会から河川愛護功労者表彰を受けた。

地区民誰でも参加でき地場産野菜の直売所として平成23年6月にオープンした「下庄青空市」は8年目を迎え、地域に定着した新鮮朝市として賑わっている。しかしまだまだ出品登録者数が少なく、季節によっては品揃えが十分でないこともあり、経営の安定化とさらなるにぎわいを創出するため、さらに出品登録者を増やすことが課題となっている。



3 平成30年度の事業内容

【名所・史跡活用ふるさと教育事業】

①下庄の唄と踊り

昨年度作成した地域の唄『ふるさと「下庄」巡り旅』に踊りの振付をし、敬老会や下庄まつりで披露した。



②名所・史跡を巡るスタンプラリー

夏休みに子どもを対象に地区内を巡って名所や史跡に触れ、故郷への愛着と誇りを養うことを目的にスタンプラリー事業を実施した。



③ふるさとの学習教材の開発（かるた制作）

子どもが遊びながら名所・史跡を学べるよう「下庄ふるさとかるた」を作製した。

【下庄青空市事業】

6月24日から10月28日までの毎週日曜日に「下庄青空市」を開催した。お盆前の8月13日（月）とお彼岸前の9月21日（金）は仏花を中心とし夕市（午後4時～）を開催した。下庄をよくする会の広報紙「下庄しるべ」で出品者の募集と開催日の告知をした。オープンと夕市（お盆前）の開催はチラシを作成し地区内全戸に配付した。



お盆前に開かれた夕市の様子

【人づくり事業：「下庄を楽しむプロジェクト」略して「しもプロ」の取り組み】

主催事業である「みずかわ感謝祭」・「下庄キャンドルナイト」のほかに、若者が集まりやすい内容のワークショップを開催した。

①木瓜川クリーン作戦（7月22日（日）午前8時30分～10時30分）

ダックレース会場（出発点となる三角公園（月美町）からフォレストタウン（東中野）までの木瓜川流域で、陽明中学校生徒や一般ボランティアなども加わって、川の中や堤防のゴミ拾い、草刈りを行った。



木瓜川クリーン作戦

木瓜川ダックレースは台風の後で水量が多く中止となり、7月29日（日）に午前11時から公開抽選会のみ実施した。



ダックレース抽選会

②下庄キャンドルナイト（2月15日（金）午後5時～6時）

今年は初めて雪のない中での開催であったが、児童の活発な提案により、工夫を凝らしたイベントとなった。



3階の教室からの眺め

③会員を増やす取り組み

雪型キャンドル作り（6月9日（土）午前10時～正午・午後1時30分～2時30分）

藍染体験（8月19日（日）午前9時30分～正午・午後1時30分～4時）

各教室を2回ずつ開催した。20代の若者や30代の親が子どもを連れて参加した。



【まちづくり活動に対する意識啓発】

①まちづくり講演会「混沌とする平成末期」

（1月23日（水）午後7時～8時15分）

より良いリーダーに必要な福井県の政治経済について学習した。

講師 日刊県民福井の元編集局編集委員

西島良平氏



②まちづくり先進地視察研修

3月2日（土）3日（日）に、オリーブ栽培によって新しい産業を興したまちづくり先進地である宮津市「由良オリーブを育てる会」を訪問し、オリーブについて、栽培・収穫方法・課題、会の設立経緯などの説明を受けた。オリーブの畑や油を搾る工房も見学した。



③まちづくり活動の広報・啓発

10月21日（日）第31回下庄まつりの会場（2階図書室）において、「大野・下庄の魅力展」を開催した。天空の城の写真、「しもプロ」のイベント写真、敬老会での「下庄の唄おどり隊・うたい隊」のステージ写真、下庄の唄を紹介する新聞記事などこれまでの取り組みを掲示した。



その他、体育館においても各団体の活動を掲示した。



4 平成30年度の事業成果

【名所・史跡活用ふるさと教育事業】

○下庄の唄と踊り

地域の唄『ふるさと「下庄」巡り旅』については、地区住民有志により踊りを踊る『下庄の唄おどり隊』が結成された。下庄地区敬老会・下庄まつりで踊りを披露した後、小学校・高齢者サロン・婦人会などから講演や指導依頼があり、名を『下庄史跡巡り踊り会』に変え、史跡の紹介と踊り方の教室を行っている。

「しもプロ」と下庄小学校児童が連携して行うイベント「下庄キャンドルナイト」のクロージングでは、3・4年生全員が『ふるさと「下庄」巡り旅』を踊り、見に来ていた地域の方も踊りの輪に入った。唄が地域の方に受け入れられていると感じた。



下庄まつり以後、唄の入ったCDを原価で販売し、平成31年3月末現在、34枚の販売実績となっており、地域の唄の輪が広がっている。

○名所・史跡を巡るスタンプラリー

大勢の児童が地域内の名所史跡を訪れ、ふるさとを学ぶ機会を提供することができ、地域活動を担う人材の掘り起こしに貢献できた。

○ふるさと学習教材の開発（かるたの製作）

今年度の完成を目指して進めてきた「下庄ふるさとかるた」は、来年度に下庄小学校・有終東小学校・各公民館・図書館・児童センター等に配布し、自分たちが生活している地域の学習などに活用していただく予定である。

【下庄青空市事業】

地区住民の活躍の場の提供のために実施している下庄青空市事業であるが、開催期間中は菊の花や中野ナスを目当てに地区外の方も来られていた。特に夕市はチラシの効果もあり開始前から行列ができ、下庄青空市の集客力の高さと地域に受け入れられている事が確認できた。

【人づくり事業】

○支援事業「みずかわ感謝祭」について

平成25年5月の呼びかけから集まった青年グループ「しもプロ」の活動も5年目を迎え、メイン事業である「みずかわ感謝祭」は、会場周辺地区の清掃協力も得られ、地域の方、特に子どもたちが楽しみにしているイベントになった。今後はクリーンアップに合わせ水辺の生物教室を開催し、子どもたちが身近な川の現状を知り、川の生物を守るために「ゴミを捨てない」「汚さない」など意識を変える活動も行いたい。

○支援事業「下庄キャンドルナイト」について

下庄小学校のふるさと学習の一環から始まった、「しもプロ」と3、4年児童による「しもキッズ」の共催のキャンドルイベントは、学校の行事と化してしまい、教職員の働き方改革で土日の開催が難しくなり、今年も平日午後5時から6時までの短い時間での開催となった。

学校側は「下庄キャンドルナイト」は、「地域の人のため自分たちで何かをしたい」「それを実現していく」という当初の理念に基づいた学習になっているのかを見直すこととしており、今後の開催は同じ形ではしない方向でいる。

また、「しもプロ」会員においては、平日の開催は仕事を休まなければならない、かなり無理をしている状況であり、双方において見直すこととなる。

○会員を増やす取り組み

零型キャンドル作りと藍染体験教室には若者が集まったが、参加した人がその後の「しもプロ」のイベントを手伝うことはなく、新規加入まで導けなかった。

【まちづくり事業】

○まちづくりシンポジウムの開催

今年は市議会・県知事・県議会・参議院の選挙があるため、自分たちのリーダーを選ぶという選挙を通じて、地域のリーダーとは何か、誰を選びどのように自分たちの暮らしを良くしていくかを考える機会とした。

○まちづくり先進地視察研修

研修では、栽培方法だけでなくオリーブの特性も詳しく説明を受けた。下庄地区でも品種を考えることによりオリーブの栽培が可能であり、新しい産業振興となりえることが分かった。

○まちづくり活動の広報・啓発

晴天に恵まれたこともあり下庄まつりは大勢の方が会場を訪れ、「しもプロ」の活動の様子、地域の唄などの新しい取り組みや各団体の活動を紹介することができた。

5 今後の展望

【地区内の名所・史跡の活用】

今後も積極的に地域に出て学びの場を提供し、小学生の史跡めぐりを継続して行い、さらなる学習を深めるため「下庄ふるさとかるた」や

『ふるさと「下庄」巡り旅』の普及、語り部の育成に努めたい。また新しい事業として各地区に伝わる年中行事（祭り・正月の迎え方・里神楽など）を冊子にまとめたいと考えている。

【直売所「下庄青空市」の再開】

今年に入り来年度の出品者を募集したが、今まで協力的だった出品者の一人から辞めたいとの申し出があった。2月の青空市連絡協議会で、このままでは青空市の存続がむずかしいことから、1カ月をかけて皆で声掛けし新規の出品者を次回までに連れてくることにした。3月末の協議会では数名新たな出品者の名があがったが、新しい方がどのくらい野菜を出せるのかわからないことや、仏花が無くても客が来るのか不安が大きく、来年度は休会することになった。年度途中の再開を目指し（できれば例年通り6月に開けるよう）協議会において、野菜を出品しやすくしたり、出品者の負担を減らしたりする方法など検討していく。野菜栽培の教室を、一年を通して数回程開催し、市への出品につなげたい。

【「しもプロ」の組織強化】

若者グループ「しもプロ」の会員は30名いるが転勤や引っ越しなどで実際に活動できる会員が少なくなっている。今年度も会員を増やすため若者向けの教室を開催したが、会員になろうという人はいなかった。「しもプロ」を設立した時は公民館の主事が声をかけ一人ひとりを集めた。やはり会員が自分たちで友人を連れてこないと増えない。負担ではなく、自分たちがやりたいこと楽しいと思う地域活動をして、活動できる会員を増やしたい。

【まちづくり事業】

下庄をよくする会は5部会（環境・文化・産業・厚生・広報）と地区推進員があり、各部等で新しい事業を展開していきたい。また各自治

会において年中行事の運営、後継者の育成など自治会の活動を続けていくための、近隣の地区との連携や、青年部・壮年部・婦人部などによる新しい取り組み（交流事業など）を支援していくことも検討していきたい。